

分野	学習目標	授業科目(例)	時間数	概要	キーワード
基礎動物看護学	動物の体の構造と機能を理解する	動物形態機能学	120	動物の生命維持の仕組みを形態学、機能学、生化学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解するとともに病的変化について学ぶ基盤を確立する。	細胞、組織、遺伝子、循環器、呼吸器、消化器、内分泌、泌尿器、神経、運動器、造血器、皮膚、感覚器
		動物繁殖学	30	繁殖に関わる形態機能学を学び、妊娠・分娩と新生子管理、遺伝学の基礎知識を修得する。	雄性生殖器、雌性生殖器、性周期、交配、妊娠、分娩、新生子管理、遺伝学概論
	疾病の成り立ちと回復の促進に寄与することを学ぶ	動物病理学	30	様々な疾病が組織や臓器にもたらす変化を学び、病態について理解する。	組織標本の作製法、炎症、変性、壊死、浮腫、充血、うっ血、過形成、低形成、肥大、萎縮、奇形、腫瘍
		動物薬理学	60	代表的な薬物の体内動態と作用機序、臨床応用および副作用について学び、動物の疾病の診断や治療にどのように用いられるかを理解する。	投薬法、投薬量計算、薬物動態、半減期、代表的な治療薬とその作用、副作用、薬物間相互作用、耐性、中毒、薬剤管理
		動物感染症学	90	微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防・治療法など感染症対策の基礎を修得する。感染防御に関わる免疫学の基礎についても学ぶ。	細菌、真菌、ウイルス、原虫、吸虫、条虫、線虫、節足動物、自然免疫、獲得免疫、ワクチン、アレルギー、滅菌、消毒、衛生管理
応用動物看護学	人と動物の調和に関わることを学ぶ	動物看護学概論	60	獣医療の歴史や動物看護師の職業倫理について学び、専門職としての社会的責務を理解し職業意識を形成する。	獣医療の歴史、動物看護の歴史、資格制度、職域、職務範囲、動物看護者の倫理綱領、獣医療倫理、インフォームドコンセント
		動物医療関連法規	30	動物や獣医療に関連する様々な法規について学び、社会における動物看護の役割を理解する。	獣医師法、獣医療法、動物の愛護及び管理に関する法律、ペットフード安全法、身体障害者補助犬法、狂犬病予防法、感染症法、家畜伝染病予防法、鳥獣保護管理法、等
		公衆衛生学	60	環境および食品衛生、疫学、人獣共通感染症について学び、人の健康の維持・増進や疾病予防への応用について理解する。	環境衛生、食品衛生、食中毒、疫学、人獣共通感染症、薬剤耐性菌
		人間動物関係学	30	動物が人間社会で果たしている役割やその背景・歴史について学び、人と動物の関係を心理学的および社会学的側面から理解する。	人と動物の関係、動物介在活動(AAA)、動物介在療法(AAT)、動物介在教育(AAE)、使役動物、補助犬
		動物福祉・倫理	30	動物愛護や動物福祉(アニマルウェルフェア)、およびその基礎となる生命倫理の考え方について学ぶ。	動物愛護、動物福祉(アニマルウェルフェア)、生命倫理、5つの自由、3つのR、安楽死
		動物行動学	30	犬や猫の種としての行動様式の特徴を学び、問題行動の原因と対処、予防法を理解する。	維持行動、発達過程、社会化、学習理論、問題行動、行動治療
	様々な動物の特性と人との関わりを理解する	伴侶動物学	60	伴侶動物の歴史や品種、飼育管理法、およびエキゾチック動物の生態について学ぶ。	伴侶動物の種類、品種、飼育管理法(犬、猫、フェレット、ウサギ、ハムスター、飼鳥、等)
		産業動物学	45	産業動物の歴史や品種、飼養管理法、および畜産業など社会との関わりについて学ぶ。	産業動物の種類、品種、飼養管理法、畜産業(馬、牛、綿羊、山羊、豚、鶏)
		実験動物学	15	実験動物の歴史や品種、飼育管理法、動物実験との関わりについて学ぶ。	実験動物の種類、飼育管理法、遺伝的コントロール、微生物学的コントロール、環境コントロール
		野生動物学	30	日本の野生動物の種類と保全、動物園等の展示動物について学ぶ。	野生動物の種類、外来生物、展示動物、鳥獣害、保全、絶滅危惧種、レッドリスト、動物園の役割
臨床動物看護学	動物の臨床看護に必要な知識を修得する	動物内科看護学	30	犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査や採血、投薬、輸液、輸血などについて理解する。	保定、身体検査、バイタルチェック、採血法、採尿法、投薬法、輸液、輸血
		動物外科看護学	60	外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を修得する。	動物の術前管理、手術室管理、滅菌消毒法、術前準備、麻酔法、手術器具、術中管理、術後管理、包帯法、救急救命法、理学療法
		動物臨床看護学総論	30	動物看護過程の一連のプロセスを学び、事例ごとの個性性に重きを置いた動物看護の基本的な考え方を修得する。	事例、チーム獣医療、動物看護過程、動物看護記録、QOL、ターミナルケア
		動物臨床看護学各論	120	様々な疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。各々の機能障害を持つ動物に対してどのような看護を提供すべきか、評価と介入の方法を習得する。	循環器疾患、呼吸器疾患、栄養代謝性疾患、消化器疾患、泌尿器疾患、内分泌疾患、生殖器疾患、整形外科疾患、皮膚疾患、神経疾患、眼疾患、造血器疾患、腫瘍、免疫介在性疾患、感染症、救急疾患、等
	動物病院業務に必要な知識を修得する	動物臨床栄養学	60	5大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの違い、各種療法食の特色や給餌方法など臨床栄養学を修得する。	5大栄養素、食性、ライフステージ、給餌計算、肥満、消瘦、ボディコンディションスコア、総合栄養食、療法食、強制給餌法、経管栄養法、静脈栄養法
		動物臨床検査学	60	様々な臨床検査の原理や方法、意義について学び、検体や測定機器の正しい扱い方、所見の記録方法を修得する。	血液検査、尿検査、糞便検査、細胞診、病理組織検査、遺伝子検査、心電図、X線検査、放射線防護、CT/MRI、超音波検査、内視鏡、神経学的検査、皮膚検査、眼科検査
		動物医療コミュニケーション	30	日常健康管理に関わる飼い主教育や事前問診、入院動物の容態説明、院内における他のスタッフとのコミュニケーションの基礎について学ぶ。	クライアントエデュケーション、院内コミュニケーション、病院マネージメント、グリーフケア
実習	修得した知識の実践力を身につける	動物形態機能学実習	45	動物の身体の形態と機能を、骨格標本や臓器模型、主要臓器の組織像などを通じて学ぶ。	顕微鏡操作法、標本による骨格形態と機能の理解、模型による内臓形態と機能の理解、主要臓器の組織像観察
		動物内科看護学実習	90	犬や猫の日常的な健康管理や内科診療に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。	グルーミング、口腔内衛生管理、爪切り、肛門囊絞り、耳掃除、基本的トレーニング法、飼育環境整備、POMR、SOAP、保定、身体検査、バイタルチェック、採血、採尿、注射、留置針設置、輸液、輸血
		動物臨床検査学実習	90	検体検査および生体検査に必要な手技や機器の扱い方など、動物臨床検査学で学んだ知識の実践力を修得する。	血液検査(血球検査、生化学検査)、尿検査、糞便検査、細胞診、心電図、X線検査、超音波検査、神経学的検査、皮膚検査、眼科検査
		動物外科看護学実習	90	手術準備や術中・術後管理、麻酔準備や麻酔監視、手術の補助、救急救命など、動物外科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。	手術準備(動物・手術器具)、術中管理、術後管理、抜糸、包帯法、麻酔準備、麻酔監視、手術助手、創傷管理、歯科処置、救急救命
		動物臨床看護学実習	45	動物看護過程や疾患別の看護など、動物臨床看護学で学んだ知識の実践力を修得する。	動物看護過程、動物看護記録、入院動物看護、褥瘡管理、栄養管理、痛みの評価
		動物看護総合実習	180	動物病院で実際の動物看護業務を体験し、身につけた知識や技術を総合的に実践する。また、牧場や動物園、水族館など様々な職場でのインターンシップを通じて、動物関連業務における広い見識を身につける。	インターンシップ(90時間以上を動物病院での実習とするのが望ましい)
計			1,650		
注1) 時間数は専修学校においては授業時数、大学においては単位制の定める学修時間とする。					
注2) 上記コアカリキュラムを修得するとともに、専修学校においては各校の特色を活かした科目(630時間)を加えて 総計2,280時間 の授業時数、大学においては資格認定時に各校が定める卒業要件相当の学修をそれぞれ必要とする。					
注3) キーワードは各科目の概要を理解するための補助として記載したものであり、対応する科目の内容全てを網羅するものではない。					
注4) 臨床技術に関する実習は症例動物を対象としたものではなく、学内飼育動物または代替教材等を活用して実施する。					